

或る農業研究員の 放浪記 (2)

さすらいの研究員

第2話 イランへの出張の旅2

今回は、第1話に続いてイランの話をしたいと思います。首都テヘランの風景や街中での体験、食事、おみやげなどのあれこれについてです。

テヘランの街

イランの首都テヘランは、人口が869万人、都市圏人口が1,367万人の標高1,100mから1,700mに広がる高原都市で南部と北部で500~600mも高低差があります。私がテヘランに滞在した冬(2023年1月前半)のテヘランの気候は、体感的に最高気温も最低気温もちょうど東京と同じくらいに感じましたが、データでも1月の平均気温は、東京が5.4℃、テヘランが7.9℃と大差はありません。しかし、普段のテヘランでは大気汚染がひどいらしいです。普段は、大気中に浮遊する微粒子により生じる「煙霧」により視界が悪く、酷いときには視程が20mの時もあるそうです。しかし、私がテヘランへ到着した日は、幸いにも好天に恵まれました。前日までの降雪で大気に漂っていた微小粒子が洗い流されたようです。



ホテルの部屋の窓からみたテヘランの街の北部【地理座標】35.7448, 51.3755

よろしければ、Google Mapの検索窓に【地理座標】を入力して仮想旅行をお楽しみください。

写真奥に見えるテヘラン北方の山はダマーヴァンド山を筆頭に標高三千~四千メートル級の山々が連なるアルボルズ山脈の一部です。その向こうにはカスピ海が広がっています。



高さ 435 m の電波塔「ポルジェ・ミーラード」からみたテヘラン北部 【地理座標】 35.790, 51.390

テヘランの交通事情

都市圏人口が 1,300 万人を超える大都市だけあって、特に朝夕の渋滞がひどいです。バイクの逆走, 無理な割り込み, 急な車線変更などなんでもあります。この地で日本人が運転するにはかなりハードルが高そうです。

市内の公共交通機関には、バスやメトロがありますが、自家用車による通勤が多いようです。街中ではイランの国産車を除くとフランス車を多く見かけました(写真)。



街路にて

右の写真は、テヘランの街中の排水溝の中に植えてある街路樹です。雨水の路面排水などが集まる排水溝の中に街路樹を植えることで、限られた水資源を有効に活用しつつ街中の緑化を図っています。これは良いアイデアだと思いました。

前回、イランの水資源は限られているということを書きましたが、山田(2019)によると、イラン国内の水資源の収支はマイナスになっているとのことです。足りない水を地下水から補填しています。また、近年の深刻な干ばつが、水資源問題に拍車をかけています。Bloomberg(2021)によるとイランの国営機関では降水量の急減や地下水の貯水量の減少などの記事を連日掲載していて、300 を超える町や都市で深刻な水不足に直面し、農業ができなくなった地方から 2,000 万人以上が都市部に移住したそうです。一方、テヘランなどの都市部では水の“過剰消費”が続いています。





テヘラン西部の下水処理場 【地理座標】 35.746, 51.368

テヘランの水使用量は、一人1日当たり325L(Bloomberg News, 2014)とも400L(山田, 2019)とも言われています。これは、東京都の一人当たりの水使用量219L/日(2015年)の1.5~2倍弱です。したがって、水資源が不足しているといつつ、都市部では節水の余地が大きいものと思われます。また、イランでは首都テヘランを含めて伝統的に汚水は地下浸透で処理されていて、硝酸態窒素による地下水汚染が問題になっているそうです(Alizadeh et al., 2024)。一方、首都で近年進めている統合下水処理システムの建設プロジェクトの一部が2021年に完成し、それまで公園などの緑地の灌漑に使われていた井戸水に代わって処理水の利用が開始されるなど(PressTV, 2021/1/14)、節水・水質対策も進められています。

メトロにて

街に出たついでに近くのメトロの駅に行ってみました。夕方のラッシュ前といった時間帯で、駅にはそこそこの人がいました。しかしながら、駅に入って、壁に貼ってある路線図を見たのですが、自分がどこにいるかわかりません。そういえば手元にはスマホもGoogle翻訳もGoogle Mapも「地球の歩き方」もありません。なんと紙の地図さえ無いのです。こういう絶望的な状況に身を置くのは久しぶりのことでした。そして、予備知識もなく壁に掲示されていた路線図とにらめっこしていると、困っている外国人を助けようと通りがかりの親切な現地の人々に声をかけていただきました(残念ながら、言葉の壁のためよく分からなかったのですが)。



テヘランメトロ

そうして、よくわからぬままに、改札口(といってもJRの駅のような自動改札です)に行くと、傍らに座っていたおじさんにメトロの乗り方について身振り手振りで尋ねました。すると、残念ながらメトロには現金では乗れずカード(といっても西側で発行されるクレジットカードではない)が必要だとのこと。しかし、そのときのやりとりで私が日本から来たことを知ったおじさんは「*You are my GUEST !!*」と言って、持っていた自分のカードをおもむろにセンサーにかざして改札を通してくれたのです。

事前に聞いていたことでもあります。イランの人々は日本人に好意的です。前回書いたような外交努力や民間の交流、お互いの歴史やメイドインジャパンの製品、そして、国内外における日本人ひとりひとりの行動などの総体が、海外における日本の評価や過ごしやすさを創出しているものと思われ。これには感謝しかありません。

さて、メトロのホームに出てみると、近くに先ほど声をかけていただいた親切な若い女性が立っていました。その女性は最初、ヒジャブと呼ばれる髪を隠すスカーフをかぶっていたのですが、私が見ている目の前でそのヘッドスカーフをパッと取り、パサッときれいな金髪を広げたのです。

時はヒジャブ問題で反政府活動が完全には収まっていない頃のことです。ヒジャブ問題とは、この約4ヶ月前のこと、ヒジャブを適切に着用していなかった22歳の女性が道徳警察に捕まり、数日後に死亡したという事件を契機にして発生した抗議活動です。このことをきっかけとして抗議デモが全国に広がっていたのです。そのときに亡くなった女性はヒジャブの下から髪が少しはみ出して見えているくらいだったといいます。そんな中でその若い女性は、外国人の私の目の前でヒジャブをとって見せたのでした。私がメトロのプラットホームで目撃したのは、まさにイラン女性の主張と勇気だったのだと思います。



テヘランメトロの駅前のようす【地理座標】 35.767, 51.366
帰路を急ぐサラリーマンの姿はいずこも同じ。街では新鮮な野菜や果物をたくさんみかけました。

イランのジェンダーについて

イスラム諸国におけるジェンダー問題というと、アフガニスタンのタリバン政権のように、女性の社会進出はおろか、学校に通うことさえ認めないような国もありますが、イランでは、ヒジャブ問題があるものの実際には、女性の社会進出が進んでいるように感じました。私が出席した会議のイラン側の女性参加者は1/4程度でしたが、質疑の時間の発言は2/3程度が女性だったような印象です。遠慮なくさまざまな質問を活発に投げかけてきます。市中や家庭のことはわかりませんが、少なくとも公

的な会議の場において男女の差はありませんでした。参加者の大半は水資源を担当するエネルギー省の職員であったのではないかと思います。幅広いテーマに興味をもち、分からないことは小さなことでもそのままにしない。そういった姿勢が見られました。こうした特性は日本人のそれに優るものと感じました。制裁が解除され、民主化が進んだあかつきには、イラン国はきっと大きく飛躍するのではないのでしょうか。

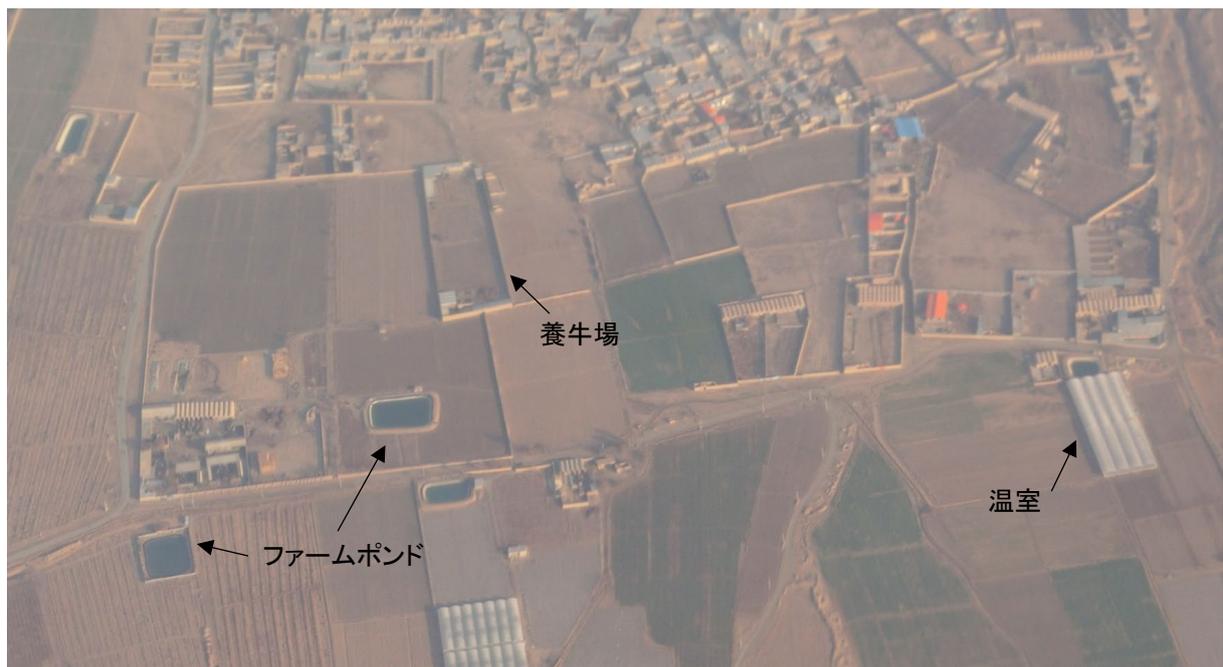


イランのご馳走

イランでは肉料理をよく頂きました。日本でシシカバブと呼ばれるような中東で広く食される肉料理です。Wikipedia をよると、角切りの牛肉の串焼きを白いピラフの上のせて食べる「チェロウ・キャバーブ」がイランの国民食とのこと。もっと若いときに来ていれば・・・もっと食べられたのに、そう思うとたいへん残念でした。



(たぶん)これがチェロウ・キャバーブ



テヘラン近郊のある集落 (Hesar-e Hasan Beyk)

【地理座標】 35.204, 51.709

テヘラン近郊の在来の集落です。小規模の養牛場(牧柵)と小規模のため池(ファームポンド)、そして、ビニールハウスが見えます。ファームポンドの水はおそらく井戸からのくみ上げとみられます。乾燥地でファームポンドに水を貯めると蒸発量が多くなると思うのですがどのように管理されているのでしょうか。

イランでは 2022 年から 2023 年にかけて、野菜栽培を露地から温室環境に移行する取り組みの一環として、約 500ha の温室が作られ稼働したそうです。温室ではキュウリ、トマト、ピーマン、ナスなどの野菜の他、観賞用植物(花)や食用キノコなどが作られているようで、温室作物の生産量は、2024 年度の最初の 10 ヶ月で前年同期比約 4% 増加したとのことです。(Tehran Times, 2025/3/14)



テヘラン近郊の大規模な養牛施設 【地理座標】 35.406, 51.229

非常に大きな養牛場です。敷地面積は約 20 ha あります。牛舎の面積(1 頭当たり 5~8 m²として)から推定すると 3,500~5,700 頭程度が飼養されている計算になります。以前、同じような乾燥地に立地する米国のコロラド州で見た養牛施設と似ている印象を持ちました。

イランのおみやげ

イランの名産品に、ドライフルーツやナッツがあります。日本でもその手の店に行くとイラン産のそれらを見かけますね。テヘランの専門店に行くと、当然ながらこんなにも種類があるものかというほどに並んでいました(写真)。特にテヘランのホテルで食した乾燥イチジクの味が忘れられません。完熟し十分に乾燥され弾け開いた大きなイチジクの実。これは絶品でした。私は、帰国の際、大量に買い込んだドライフルーツやナッツ類をスーツケースの空きスペースに詰め込めるだけ詰め込んで、さらに入りきらない分は両手にかかえて飛行機に乗り込んだことを憶えています。



そして、訪問から2年以上経った今でも、私は日本で輸入ドライフルーツを扱っている店舗や通販サイトを訪ねてイラン産の絶品乾燥イチジクを探し続けています。それほどにイランで食べたものは素晴らしかったのです。

参考資料

- Wikipedia, 「テヘラン」, 「シシカバブ」, 「Water supply and sanitation in Iran」
山田拓也(2019) イランの水資源を取り巻く課題について, 水文・水資源学会誌, 32(5), 255-262
Alizadeh et al.(2024) Human health risk of nitrate in groundwater of Tehran-Karaj plain, Iran, Scientific reports, 14, 7830
Motevalli, G. et al.(2021/12/19) Inside the Deadly Water Crisis Threatening Iran's Leadership, Bloomberg